女子 長崎商3位「やり切れた」

エース後田 チームけん引

若い力

ソフトボール

【女子】
▽準決勝
山梨学院（山梨） 020 000 3―5
長崎商（長崎） 000 000 0―0
（山）向山―田口
（長）後田―松尾愛
▽本塁打 田口（山）
▽決勝
山梨学院（山梨） 000 100 0―1
厚木商（神奈川） 300 000 ×―3
（厚木商は10年ぶり8度目の優勝）

【ソフトボール女子準決勝、山梨学院―長崎商】粘り強く7回を投げ抜いた長崎商のエース後田＝高知市、高知県立春野総合運動公園運動広場

堂々の戦いぶりだった。ソフトボール女子の長崎商は準決勝で山梨学院に0―5で敗れたが、昨夏の金メダル（4校同時優勝）に続いて銅メダルを獲得した。溝口監督は「準決勝は私の采配ミス。選手たちは新しい歴史をつくってくれた」と健闘をたたえた。

天候不良で準決勝以降が中止となった昨夏。初優勝を喜びながらも、最終日の景色を見ることができなかった。その歯がゆさを知る現メンバーはまた、同じ位置まで勝ち上がってきた。

エース後田がチームをけん引した。準々決勝まで4試合計20イニングを11安打1失点の好投。磨いてきたチェンジアップを生かしながら、凡打の山を築いた。村子、黒川の二遊間を軸にしたバックも堅守で支えた。

待ち望んだ準決勝の舞台。後田は二回に2ランを浴びたが「2点ならまだ戦える」と慌てなかった。中堅渡辺の3度の好捕をはじめ、バックも懸命に守った。最終回に追加点を許しても「内容は悪くなかったので代えなかった」（溝口監督）。エースは最後まで104球を投げ抜いた。

春の全国選抜大会は県大会で敗れて出場できなかった。そこからチームははい上がり、夏は全国でメダルをつかんだ。主将の松尾愛は「準決勝は未知の世界だったけど、やり切れた」と充実した表情で振り返り、慣れ親しんだ長崎商のユニホームに別れを告げた。（則行優志）